

令和6年度 第3回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議

次 第

日時 令和7年3月7日（金） 13時～

場所 麻生区役所第2会議室

1 開会

2 議事

（1）第7期麻生区地域福祉計画の進捗状況について 資料1

（2）令和6年度地域情報交換会の結果報告について 資料2

（3）その他

3 閉会

次回の会議日程 令和7年6月27日（金） 13時～14時半 麻生区役所

【配布資料】

- ・委員名簿
- ・座席表
- ・あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱
- ・資 料 1 第7期麻生区地域福祉計画進捗状況
- ・資 料 2 令和6年度地域情報交換会の結果報告
- ・参考資料 相談窓口リーフレット
- ・参考資料 健康フェス in 白山 チラシ
- ・参考資料 長寿日本一～その先へ～麻生区地域包括ケアシステム講演会 チラシ

あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議委員

(敬称略、順不同)

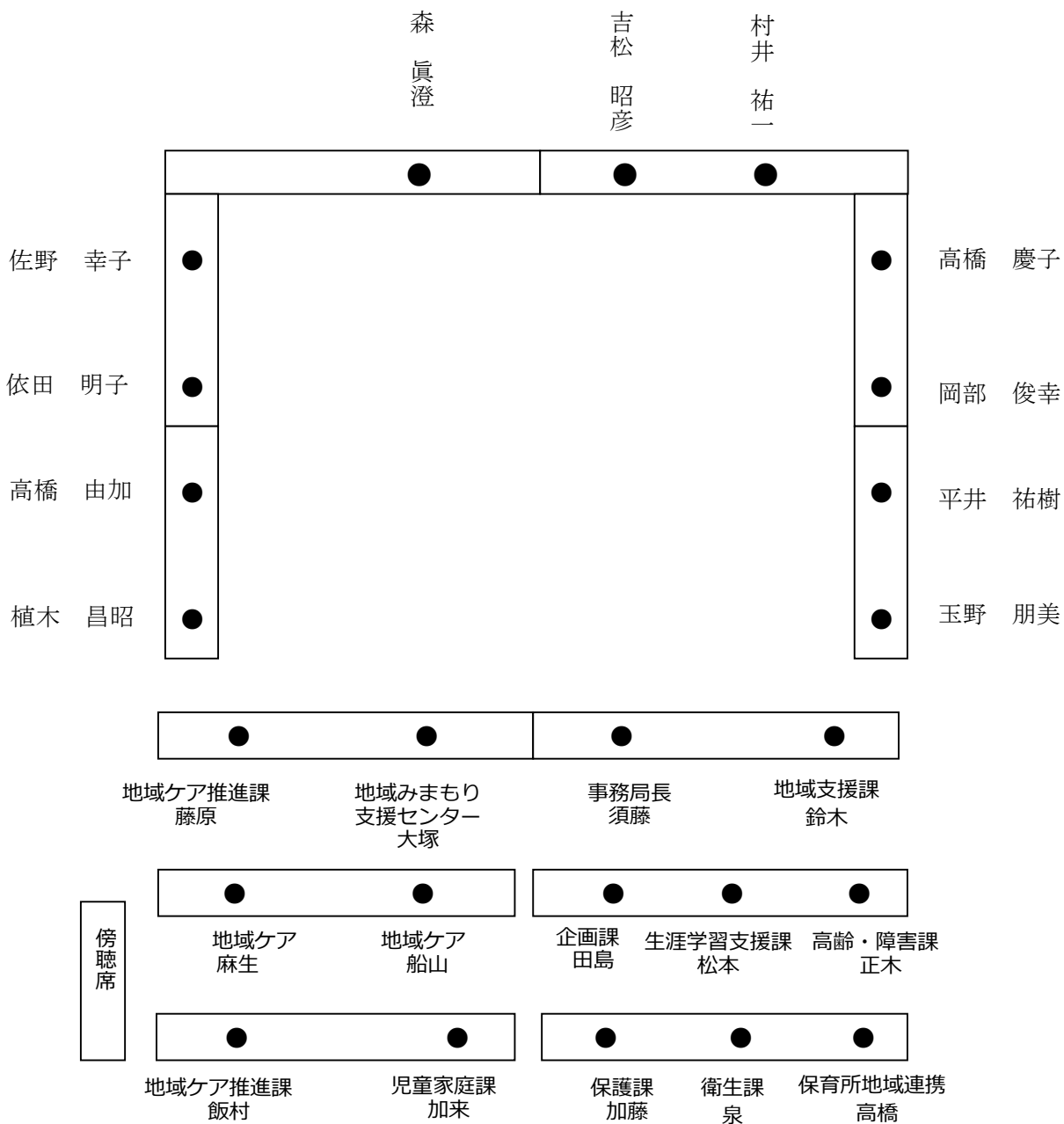
	区 分	団体名など	氏 名	備 考
1	学 識	田園調布学園大学	村井 祐一	
2	関係団体	麻生区町会連合会	高橋 慶子	
3	〃	認定 NPO 法人あさお市民活動サポートセンター	岡部 俊幸	
4	〃	麻生区地域自立支援協議会	平井 祐樹	
5	〃	麻生区地域包括支援センター連絡会議	玉野 朋美	
6	〃	川崎市医師会麻生区医師会	吉松 昭彦	
7	〃	麻生区民生委員児童委員協議会	森 眞澄	
8	〃	麻生区民生委員児童委員協議会 主任児童委員部会	吉垣 君子	
9	〃	麻生東地区社会福祉協議会	佐野 幸子	
10	〃	柿生地区社会福祉協議会	依田 明子	
11	〃	麻生区社会福祉協議会	高橋 由加	
12	公募市民	公募区民	植木 昌昭	

事務局名簿

	所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考
1	地域みまもり支援センター所長	須藤 聖一	事務局長
2	地域みまもり支援センター副所長	大塚 吾郎	
3	地域ケア推進課長	藤原 亮子	
4	地域支援課長	鈴木 千絵	
5	児童家庭課長	加来 健司	
6	高齢・障害課長	正木 久美子	
7	保護課長	加藤 利明	
8	衛生課長	泉 浩人	
9	保育所等・地域連携担当課長	高橋 実千代	
10	危機管理担当課長	石垣 秀之	欠席
11	企画課長	田島 歳宜	
12	生涯学習支援課長	相澤 悟	(代) 松本係長
13	地域ケア推進課 企画調整係長	船山 智志	
14	地域ケア推進課 企画調整係 主任	麻生 淳一	
15	地域ケア推進課 企画調整係	飯村 壮太	

令和6年度 第3回あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議
座席表

(敬称略、順不同)



あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議開催運営等要綱

(設置)

第1条 この要綱は、あさお福祉計画（以下「福祉計画」という。）及び地域包括ケアシステムに係る取組を推進するため、あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議（以下「会議」という。）の運営に関し、必要な基本事項を定める。

(目的)

第2条 区長は、福祉計画及び地域包括ケアシステムの推進に関し、次に掲げる事項について、会議の委員の意見を求める。

- (1) 福祉計画の策定及び変更に関すること
- (2) 福祉計画の進捗状況に関すること
- (3) 麻生区における地域包括ケアシステムの推進及びネットワーク構築に関すること
- (4) 前各号に定める事項の他、会議で必要と認める事項

(委員)

第3条 会議の委員は、次に掲げる者に就任を依頼する。

- (1) 学識経験者
- (2) 関係団体代表者
- (3) 公募市民

2 前項の委員のほか、特別及び専門的事項に関する意見を求めるため、区長において必要があると認めるときは、推進会議に臨時の委員を置くことができる。

(任期)

第4条 委員の任期は、あさお福祉計画の計画期間と同一とする。ただし、再任を妨げない。

(庶務)

第5条 会議の庶務は、麻生区役所地域みまもり支援センター（福祉事務所・保健所支所）地域ケア推進課において処理する。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年10月14日から施行する。

(旧要綱の廃止)

- 2 あさお福祉計画推進会議開催運営等要綱（２６川麻地保第１２４１号）は廃止する。
（あさお福祉計画推進会議開催運営等要綱の廃止に伴う経過措置）
- 3 この要綱の施行の際、現に前項の規定による廃止前のあさお福祉計画推進会議開催運営等要綱第３条の規定により就任を依頼されたあさお福祉計画推進会議の委員である者は、この要綱の施行の日に第３条の規定により会議の委員として就任を依頼されたものとみなす。

附 則

この要綱は、平成３０年２月１９日から施行する。

附 則

この要綱は、平成３１年４月１日から施行する。

基本 目標	基本 方針	取組 No.	取組	関連する 部署	関連する団体等	数値で把握することが 可能な取組結果（R5）	数値で把握することが 可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
1 区民が主役の地域づくり	1 地域活動の参加につながる取組の推進（重点項目1）	1	地域活動に関わる人材の発掘と育成	地域支援課	区社会福祉協議会 麻生市民交流館やまゆり 麻生区ソーシャルデザインセンター	認知症サポーター養成講座：19回 459人 すくすく子育てボランティア養成教室：修了者 9人 すくすくボランティア活動支援：活動参加者 延べ 158人 健康づくりボランティア養成教室：修了者 17人 食生活改善推進員養成教室：修了者15人 シニアの社会参加支援：6回 97人 市民エンパワーメント研修：4回 86人 識字ボランティア研修：3回 44人 保育ボランティア研修：5回 54人	認知症サポーター養成講座：17回 608人 すくすくボランティア活動支援：活動参加者 延べ 126人 健康づくりボランティア養成教室：修了者 10人 ボランティアフォロー講座：3月開催予定 食生活改善推進員養成教室：修了者 10人 シニアの社会参加支援：5回 52人 市民エンパワーメント研修：4回 21人 識字ボランティア研修：10回 157人 市民自主学級「新しい！ご隠居スタイルを目指して」：10回 275人	・認知症サポーター養成講座を開催し、認知症への理解を深め、地域の中で見守るサポーターを養成した。特に今年度は小学校に依頼し、若者への理解を深めた。 ・1歳6カ月児健診、3歳児健診、すくすく相談（育児相談）等でのボランティア活動を支援した。 ・年に2回すくすく子育てボランティア向けに連絡会と学習会を実施した。 ・昨年同様、健康づくりボランティアと食生活改善推進員養成教室を合同で全4日間実施した。グループ討論の時間を多く設定する事で、仲間づくりのきっかけとなるよう改善した。また、食継続的な育成として、学習会において食に関する情報提供を行った。 ・シニアの社会参加支援について、トークセッション「若者と共に考えるこれからのキャリア」と「キャリアモデルカフェスタッフ研修」を実施し、キャリアについてそれぞれの価値観や視点を広げ、「キャリアモデルカフェ」を実施し、社会・地域貢献へつなげた。 ・市民エンパワーメント研修について、「障がい者支援ボランティア講座」を実施し、「障がい者社会参加学習活動で共に活動する仲間を増やすことを目的として開催した。」 ・識字ボランティア研修について、共に学び合う学習者であるボランティアについて、また学習者の日本語習得程度に沿った効果的な学習方法とやさしい日本語について学ぶ研修を全10回開催した。 ・市民自主学級の元、人生100年時代を迎え、当事者同士の会話の中から、新たな生き方や新たなご隠居スタイルについてともに学び、知恵を出し合いながらこれからの生きがいのヒントを探る講座を開催した。 ・地域のつながりづくりや新たな担い手創出を目的に、4月に開設し、12月にNPO法人化を行った、麻生区ソーシャルデザインセンターと協働して、まちのひろば祭りや100人カイギなどを開催した。 ・相談窓口検索サイト担当会議を、検索サイトの向上・充実や福祉まつりへの参加に向けて5回実施した。【見込】 ・相談窓口の周知と活用促進、また地域デビューのお手伝いのため、福祉まつりへ「はじめの一步」と題して、社協、SDC、やまゆりが共同で相談ブースを出展した。
		2	地域活動参加につながる「ちいきのちからシート」の活用	地域支援課	町会・自治会 地域で活動する団体	「ちいきのちからシート」実施回数：3回 町会、小学校、こども文化センター	「ちいきのちからシート」実施回数：1回【見込】	・新旺町会長研修、こども文化センター、地域情報交換会等で、これからの活動を考えるにあたって手掛かりを掴むために、ちいきのちからシートの活用案内を行ったが、活用希望団体が現れず、実施していない。
		3	地区カルテを活用した地域づくり	地域支援課	町会・自治会 民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター	HPアクセス数：86.8回/月	HPアクセス数：116.6回/月	・地域情報交換会や民生委員児童委員に対し共通フェイスシートを配布し、地域に関する情報の共有を行った。また、各種統計調査の結果を反映し情報更新の作業を進めた。
		4	学生ボランティア活動の促進	地域支援課	区内大学 認知症カフェ等	学生ボランティアに関する講義：3回 学生ボランティアマッチング数：17件	学生ボランティアに関する講義：3回 学生ボランティアマッチング数：52件	・田園調布学園大学の授業内で認知症サポーター養成講座や行政社会福祉職講義、地域の福祉活動についての講義を通じて、地域におけるボランティア活動の意義を伝え、学生の福祉マインドの醸成に寄与した。
1 区民が主役の地域づくり	2 地域活動団体等への活動支援	5	地域活動等に対する活動支援	地域支援課 地域ケア推進課 高齢・障害課 衛生課	町会・自治会 民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター 老人クラブ	—	—	・公園体操や公園ウォークなど地域住民主体の地域活動等に対して、活動の立ち上げや、体操指導者の派遣、活動の継続に向けた関係者間の役割分担の調整などの支援を行った。 ・地域の交流・仲間づくりの環境醸成に向けて、民生委員・児童委員、生活支援コーディネーター、町内会・自治会等と情報共有、連携促進を図った。 ・地域住民との交流を促す活動について、地域包括支援センターや老人クラブと連携し、情報共有を行った。 ・食品の提供等を行う活動の相談はなかった。
		6	子育てグループへの活動支援	地域ケア推進課 保育所等・地域連携担当	子育てグループ 子育てボランティア 区社会福祉協議会	支援団体：2団体、対象者総数：274人 子育てボランティア派遣数：65人 出張講座：5回	支援団体：2団体、対象者総数：84人 子育てボランティア派遣数：41人（12月末時点） 出張講座：4回 子育て自主グループ訪問：14か所 サロン訪問：6回	・子育てグループに出向き、育児相談を実施した。参加者が減少しているグループについて、状況を把握し今後の運営について相談支援を実施した。 ・子育てグループ交流会にて事業の紹介を実施。利用対象を子育てサロン等の地域の活動者へ拡大し、改訂した広報用リーフレットを各地区民児協定例会において配布し、事業説明を実施。地域のボランティア会員が1人新規登録 ・出張講座では子育て自主グループの活動場所に出向き希望に応じた講座を計4回実施した。 ・自主グループ実施状況確認のため活動日に訪問し、広報や実施内容についての相談を受けた。 ・地域支援課と連携し、サロン開催日に訪問。参加者の相談を受けたり公立保育園の広報を行った。
		7	市民提案型協働事業による地域活動団体との協働	企画課	地域で活動する団体	市民提案型協働事業採択団体数：4団体	市民提案型協働事業採択団体数：4団体	・地域課題の発見と解決を図り、より住みよいまちづくりを推進することを目的に、地域の団体と協働して提案事業に取り組んでいる。提案事業の進捗状況及び適切な実施の確認のため、今年度事業の中間報告及び今年度事業実施の振り返りを行った。【見込】
		8	公園・街路樹等の愛護活動支援	道路公園センター	公園緑地愛護会 街路樹等愛護会 管理運営協議会	公園緑地愛護会：51団体 街路樹等愛護会：20団体 管理運営協議会：74団体	公園緑地愛護会：49団体 街路樹等愛護会：19団体 管理運営協議会：75団体【見込】	・町内会や自治会、公園利用者、市民団体、その他法人等の公園等ボランティアによる公園緑地及び街路樹等の日常的な維持管理によりまちの美化が保たれた。 ・公園緑地等の維持管理に加え、市民との協働による地元管理運営の推進によって、市民自治の確立による健全な地域コミュニティの発展育成の場の創出が推進された。

基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
1	区民が主役の地域づくり	3	健康づくり・介護予防の推進					
		9	健康づくりの増進	地域支援課	地域包括支援センター 生活支援コーディネーター	地域包括ケアシステム講演会： 「健康長寿社会に向けて」 91人 生活習慣病予防事業： 「骨コツぱくぱく講座」 11組 健康づくり講演会： 「中高年からの骨折予防・転倒予防」 46人 「将来のために知って欲しいママと子どもの骨のこと」 30人 食育講演会： 「知って得する！シニアのパワーアップレシビ」 53人 あさおの保健室：6回 413人 公開講座「ロングライフコンディショニング」：3回 79人	生活習慣病予防事業： 「野菜ぱくぱく講座」 10組 食育講演会： 「防災講演会」 25人見込み（2月実施） あさおの保健室：5回361人 （2月にあと6回目を実施予定） 公開講座「ロングライフコンディショニング」：3回50人（3月に4回目を実施予定） 地域の催しでの健康測定会 2回：104人（3月に3回目を実施予定） わくわくプラザを利用する小学生を対象とした健康講話 4か所207人	・地域子育て支援センターにおいて実施した生活習慣病予防事業では、子育て世代を対象に、骨粗鬆症及び高血圧症、脂質異常症の予防、野菜摂取の工夫に関する知識の普及啓発を行った。 ・第5期川崎市食育推進計画の中の「さいがい」に備える食育の推進」を目的に、災害時の備えとして乾物の利用、ローリングストックを調理を伴う講座を通して普及する。 ・長寿日本一記念事業として、麻生区内スポーツ関連施設5か所と連携して健康づくりに関する普及啓発を実施した。施設のスペースを使い、健康チェックやその結果に応じた健康相談・情報提供を行う「あさおの保健室」を6回、スポーツジムのインストラクターによる公開講座「ロングライフコンディショニング」4回実施したほか、麻生区健康情報ポスターを毎月発行し、施設内に掲示し情報発信した。 ・わくわくプラザでは、「早寝・早起き・朝ご飯」をテーマに健康教育を行い、健康的な生活習慣の獲得・維持を促した。※コロナ禍でオンラインを使用した講演会が主流となり、コロナ禍が明けても、オンラインを併用して感染対策を継続し実施している。
		10	健康づくり・介護予防グループへの活動支援	地域支援課	地域包括支援センター あさお運動普及推進員の会 公園ウォーク推進委員会	—	介護予防講座の実施 区内5地区（うち1か所は3月に実施予定） 地域で活動する団体での出前講話 20以上（756人）※12月時点	・ラジオ体操の講習会や骨密度などの測定会を開催したほか、公園体操をはじめとする地域の活動に出向き、インフルエンザや熱中症の予防などの講座を実施した。
2	区民本位の福祉サービスの提供	11	食生活改善推進員・配食等ボランティアへの活動支援	地域支援課 衛生課	食生活改善推進員	学習会支援：11回 125人 配食ボランティア支援：2回 36人 配食ボランティア団体に対する衛生教育：2団体 75名	学習会支援：9回 115人 配食ボランティア支援：3回 64人 配食ボランティア団体に対する衛生教育：9団体 127名	・食生活改善推進員の継続的な育成として、学習会において区課題を共有し、食に関する情報提供を行った。また、配食ボランティアに対し介護予防の食に関する情報提供を行った。 ・区内の配食等ボランティア10団体から、会食活動、配食活動及びミニデイスービスの活動予定が提出された。うち9団体に衛生教育を実施（計9回）した。
		12	様々な媒体を用いた保健福祉に関する情報発信	全課	—	市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信：80件 麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信：85件	市政だより麻生区版における保健福祉情報の発信：62件【12月時点】 麻生区役所企画課Xアカウントにおける保健福祉情報の発信：130件【12月末時点】	・窓口でのチラシ・リーフレットを活用した案内の他、市政だより、区ホームページ、SNS（X）、イベント、会議、ネットワーク等で、区民や関係者に地域の保健福祉に関する情報を発信した。 ・「 長寿日本一～その先へ～に向けた取組として、「あなたが『幸せ』を感じる時」を募集し、区民まつり、福祉まつりなどのイベントにおいて、ブースを設置し、保健福祉に係る情報発信を行った。
		13	子育て情報の発信	地域ケア推進課 地域支援課 児童家庭課 保育所等・地域連携担当	子ども関連ネットワーク会議	きゅっとハグあさお発行部数：5,600部 ちびっこおでかけMAP発行部数：11,000部	きゅっとハグあさお発行部数：5,000部 ちびっこおでかけMAP発行部数：11,000部 母子健康手帳交付時の情報提供 妊娠届出数 751名 直営健診実施時の情報提供 1歳6か月児及び3歳児健康診査受診数 1625名 ホームページ掲載 市政だより掲載 10回 X掲載 18回 地域支援情報おたより発行 12回（見込）	・「子育てガイドブック きゅっとハグあさお」及び「ちびっこおでかけMAP」を改訂し、窓口及び関係各所に配架した。 ・区内子ども関連施設のイベントやおたよりを区HPへ掲載し、情報発信を行った。 ・子育てフェスタのパンフレットに子育て支援情報を掲載し、子育てガイドブックや子育て人材バンク、子ども関連大学連携事業の情報発信を行った。 ・区役所及びイオンに設置している子ども情報コーナーにおいて、毎月おたよりを配架し、子ども関連のお知らせ・母子健康手帳交付時は、「きゅっとハグあさお」「かわさき子育てガイドブック」その他の妊娠出産育児に関するガイドブック等を配布。また「かわさき子育てアプリ」を紹介した。 ・1歳6か月児健診では、食事・運動と公立保育園・地域子育て支援センターの情報、かわさき子育てアプリを紹介。3歳児健診では、食事・運動の子育て情報を紹介した。
	重点項目2	14	高齢者や障害者が安心して生活するための制度や知識の普及啓発	高齢・障害課 地域支援課	地域包括支援センター 障害者相談支援センター	—	冊子「いつまでもいきいきと暮らすために」の更新 1,500部増刷・配布	・電話、来所相談等で健康づくり・介護予防に関する相談に応じ、適宜それぞれの状況に合った情報を提供した。適宜、高齢者福祉のしおり等の冊子や資料活用して説明を行った。 ・冊子「いつまでもいきいきと暮らすために」は、地域包括支援センターなどとも協力して地域住民に配布し、地域活動への参加を促した。
		15	感染症・食中毒予防の普及啓発	衛生課 地域支援課	区医師会 区薬剤師会 区食品衛生協会	—	—	食中毒予防に係る普及啓発を実施した。 ・掲示物等を活用した広報（懸垂幕・保健所入口・衛生課窓口） ・ブース展示を活用した広報（区総合防災訓練、あさお区民まつり、あさお福祉まつり） ・衛生教育や講演などを活用した広報（配食ボランティアへの広報、食品衛生責任者実務講習会あいさつの場や食品衛生指導員研修会の場を利用した広報） ・その他、食品衛生協会と連携した食品関連事業者向けの広報 感染症予防に係る普及啓発を実施した。 ・区役所ホールによるデジタルサイネージ及び衛生課窓口におけるブース展示 ・区総合防災訓練でのブース出展 ・「今、何の病気が流行しているか！」を区内医療機関15施設に送付、区役所内で4か所に掲示することに加え、Xを活用した情報発信 ・地域課題対応事業の一環として新百合ヶ丘総合病院 医学健康講座と共催により感染症講演会を開催

基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
2 区民本位の福祉サービスの提供	相談支援に対する専門性の向上と関係機関との連携強化	16	子ども・子育てに関する相談支援体制の充実	地域支援課 児童家庭課 高齢・障害課 保護課 保育所等・地域連携担当 学校・地域連携担当	保育所 地域子育て支援センター 児童家庭支援センター 地域療育センター 子ども発達・相談センター	専門的な相談：76回 専門的な教室：16回 状況把握のための母子世帯に対する訪問調査実施回数：月平均10.7回(年間129回)	専門的な相談：60回 専門的な教室：15回 状況把握のための母子世帯に対する訪問調査実施回数：月平均12.1回(R6.12まで121回) 大きくない相談会：6回開催 子育てなんでも聞いてみよう！：15件	・発達の遅れが疑われる子どもやその家庭への支援として、専門的な相談を実施した。 ・発達に気になる子どもへの関わり方を学ぶ専門的な教室を開催した。 ・随時、発達の遅れが疑われる子どもやその家庭に対して、保健師、社会福祉職、心理職、子ども教育相談員等専門職が連携し電話相談や面談等対応した。 ・子どもや子育てに関する市民からのニーズを訪問調査や面接等で聴取り、地域支援課や児童相談所等関係機関をはじめ、関係部署や関連団体と必要に応じて連携協働した。また、関係部署や関連団体とのカンファレンスや事例検討にも積極的に参加した。 ・地域子育て支援センターみなみゆりがおかで地域支援課の心理士と公立保育園のコーディネーターと相談会を実施。主に発達についての相談を受けた。 ・子育てなんでも聞いてみよう！はロゴフォームから相談を受け付けて電話・メール・オンラインでそれぞれの専門職が対応した。必要に応じて地域支援課と連携した。 ・学校や教育委員会事務局と密に連携を取りながら、電話や来庁者の教育相談への対応・支援を行った。
		17	高齢者に関する相談支援体制の充実	高齢・障害課	地域包括支援センター	—	—	・電話や来所相談に来られた方の話をよく聞き、必要に応じて地域包括支援センターや関係窓口の案内を行った。
		18	障害者に関する相談支援体制の充実	高齢・障害課	障害者相談支援センター	—	相談支援調整会議：月1回	・北部地域支援室、障害者相談支援センター職員と協働でGSV（グループスーパービジョン）の手法を活用した事例検討を行い、支援方法等に関する協議や計画相談支援等の質及び充実に関して協議した。
		19	健康で快適な暮らしを確保するための相談支援体制の充実	衛生課	—	—	ねすみや衛生害虫等に係る苦情・相談件数：ねすみ120件、衛生害虫等：266件 両親学級等衛生的な住環境に関する講習会：計20回 414名	・ねすみや衛生害虫等に係る苦情・相談が寄せられた際には、必要に応じ関係部署と連携し、解決に向け対応した。また、結核、エイズ等の感染症についても患者やその地区民から寄せられた相談に対して適切に対応した。 ・令和6年度は、両親学級その他高齢者の会食活動や地域包括支援センター長会議でも衛生的な住環境に関する講話を行った。
		20	権利擁護への対応の充実	高齢・障害課 地域支援課	児童家庭支援センター 地域療育センター 子ども発達・相談センター 地域包括支援センター 障害者相談支援センター 麻生区あんしんセンター	通報件数： 障害者に対する虐待：21件 高齢者に対する虐待：100件 区内小中学校訪問： 小学校16校、中学校8校 乳幼児虐待予防事業スーパーバイズ研修：7回（再掲） 要保護児童対策地域協議会スーパーバイズ研修：2回	通報件数： 障害者に対する虐待：40件 高齢者に対する虐待：81件 市長申立：1件（高齢） 区内小中学校訪問： 小学校16校、中学校8校 乳幼児虐待予防事業スーパーバイズ研修：4回 要保護児童対策地域協議会スーパーバイズ研修：2回 要対協研修：小学校1校	・地域包括支援センターや相談支援センター、麻生警察署との連携を密に相談や通報への迅速な対応・支援を行った。 ・虐待対応の中で成年後見の利用が必要と思われる対象者に対し関係機関と連携し、制度説明等利用支援を行った。親族による申立てについては川崎市成年後見支援センターや麻生区あんしんセンター、法テラスを案内するなど連携して相談対応を行った。 ・毎月実施している高齢者支援カンファレンスに障害者相談支援センターや北部在宅支援室等が定期的に出席して、育児負担のある保護者や当該児童の相談、学校等関係機関からの相談、通告に適宜応じた。 ・対応のスキルアップのため、乳幼児虐待予防事業スーパーバイズ研修、要保護児童対策地域協議会スーパーバイズ研修を課内職員（一部外部職員含む）向けに実施した。 ・主任児童委員の主催で、5～6月の期間中に区内全小中学校訪問を実施し、情報交換や共有を行った。 ・個別の要支援児童等への対応について、個別支援会議を随時実施した。 ・区内のこども文化センター、わくわくプラザについて関係機関を訪問し、子どもの居場所としての取り組みや子どもたちの過ごし方について調査した。また、要保護児童対策地域協議会での連携についても協力を依頼した。 ・日頃から学齢児支援で連携を取っている小学校で要対協研修を実施。地域支援課の支援内容について知っていたく機会となり、今後連携して支援していくための下地づくりを行えた。
3 「ひと・もの・場」を	1 認知症にやさしいまちづくり重点項目	22	認知症に関する普及啓発	地域支援課	あさおオレンジプロジェクト 地域包括支援センター 区社会福祉協議会	あさおオレンジプロジェクト：3回 認知症講演会：2回 麻生図書館・柿生分館パネル展示：2回 柿生小学校図書室展示：1回 認知症サポーター養成講座：19回（再掲） RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席：10回 キャラバン・メイト連絡会：2回 認知症にやさしいまち表彰：1店舗 認知症フォローアップ講座：1回	あさおオレンジプロジェクト：3回 認知症サポーター養成講座17回（再掲） キャラバン・メイト連絡会：2回 そなえる認知症I（講演会） そなえる認知症II（講演会） RUNTOMO+あさお実行委員会へ出席：9回 キャラバン・メイト連絡会：2回 麻生図書館・柿生分館パネル展示：2回 百合丘小学校図書室展示：1回 認知症にやさしいまち表彰：9店舗(2月末) 認知症フォローアップ講座：1回	・あさおオレンジプロジェクトの実施により、麻生区の認知症施策の検討を行った。 ・キャラバン・メイト連絡会を実施し、市内キャラバン・メイトへの情報提供及び認知症サポーター養成講座開催に向けての情報交換、サポーター養成講座受講後の活躍の場についての検討を実施した。 ・図書館（麻生図書館、柿生分館）、図書室（百合丘小学校、片平小学校）での展示により、市民に対し、認知症の方への理解を進めた。 ・認知症サポーター養成講座を受講し、今後、認知症の方々の居場所となりたい思いや、地域で見守ってほしいとの思いのある、麻生区内及び近郊の都市の企業・店舗に対し、「認知症にやさしいお店」として、区長から表彰を行い、ステッカーを授与した。 ・市民向け認知症サポーター養成講座のフォロー講座（そなえる認知症1・2）：2回（11月8日、12月25日） ・あさおオレンジプロジェクトの会議の意見を参考に区内の認知症カフェを訪問し、まとめたものを講座やロビー等で展示し、区民への周知を行った。

基本 目標	基本 方針	取組 No.	取組	関連する 部署	関連する団体等	数値で把握することが 可能な取組結果（R5）	数値で把握することが 可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
つなぐ 自助・互助の 仕組みづくり	つなぐ 自助の 推進 2 地域ぐるみで子育てできる環境づくりの推進	23	認知症訪問支援事業	高齢・障害課	地域包括支援センター 認知症サポート医 訪問看護師 ケアマネジャー	認知症訪問支援チーム会議：6回 （定例5回、臨時1回） 令和5年度新規対象者：3件	認知症訪問支援チーム会議：7回 （定例6回、臨時1回） 令和6年度新規対象者：5件	・認知症訪問支援事業チーム会議を隔月開催。支援対象者を医療介護等の支援につながるよう専門職による検討を行った。
		24	認知症等行方不明SOSネットワーク事業	高齢・障害課	地域包括支援センター 警察署	区内発生件数：0件	区内発生件数：2件（解決済）	・区内で発生した場合に区内等関係機関で情報共有できるように、区社会福祉協議会、保護課、地域支援課、地域ケア推進課に情報提供を行った。
		25	地域で子育てを支える取組	保育所等・地域連携担当 地域支援課	保育所 地域子育て支援センター	こんにちは赤ちゃん訪問 106件	はじめてのババママ 3回開催（見込） （Ⅰ期）34組69名参加 （Ⅱ期）41組85名参加 にこにっこ 2回開催（見込） （Ⅰ期）14組28名参加 （Ⅱ期） サロンへの訪問 8回（見込） こんにちは赤ちゃん訪問 58件	・「はじめてのババ&ママ」3回連続講座 栄養士、保育士、看護師の講座を実施。参加者同士の懇談を行った。 ・「にこにっこ」父親の育児講座 保育士による遊びの紹介。父親同士の懇談を行った。 ・新しくできたサロンに公立保育園の職員と共に訪問。相談を受けたり、遊びの提供を行った。 育児不安や孤立の軽減、地域とのつながりがもてるよう訪問を実施した。 令和6年度の新規登録訪問員は1名。訪問員のスキルアップのための研修と連絡会を2回実施した。
		26	大学と連携した子ども・子育て支援事業	地域ケア推進課 保育所等・地域連携担当 生涯学習支援課	区内大学	小学生向け支援事業 5大学 未就学児親子向け支援事業 2大学	小学生向け支援事業 5大学 未就学児親子向け支援事業 2大学	・日本映画大学と連携し、こども映画大学を8月に実施。体験学習に22名の参加、上映会に家族等71名の参加があった。 ・昭和音楽大学と連携し、区内小学生を対象とした「交流コンサート」を11月に実施した。70名の親子が参加し、音楽を通じた学生との交流を楽しんだ。 ・4歳以上の子どもと家族を対象とした「昭和音楽大学吹奏楽団ファミリー定期演奏会」を実施。午前と午後、合わせて1,000人以上の一般来場者があり、多くの区内在住親子が参加した。 ・玉川大学と連携し、乳幼児の保護者・妊娠中の方を対象とした講座を1月に、区内小学生を対象とした体験学習を2月に実施した。講座に20名の参加、体験学習に22組44名の参加があった。 ・田園調布学園大学にて未就学児親子を対象に「キッズアート」を9月に開催。大学講師と学生、地域親子と一緒に彫塑粘土を使った表現あそびを行った。 ・田園調布学園大学で未就学児親子を対象に「あそぼう！けろけろ田園チャイルド」を開催。10月に開催。大学教授とゼミの学生、民間保育所職員が遊びの提供を行い、地域親子と交流した。 ・和光大学と連携し、区内小学生を対象に「ファミリー体験学習in鶴見川」を実施。4組8名の参加があった。 （当初は20組を超える申込があったものの、トンネル見学ができなくなったこと、さらに前日の大雨予報や体調不良の理由等、度重なる要因でキャンセルが多くなってしまった。）
		27	麻生区子ども関連ネットワーク会議	地域ケア推進課	子どもに関わる機関・団体	回数：2回 子育てグループ交流会（麻生区社会福祉協議会子育て支援委員会と共催）：1回 10名参加	回数：1回（第2回は3月に書面開催予定） 子育てグループ交流会：1回 12名参加	・お互いの活動に関する情報交換や子どもの権利に関する研修会を行うとともに、麻生区社会福祉協議会子育て支援委員会との共催にて講演会を2月に開催した。 ・麻生区社会福祉協議会子育て支援委員会との共催で10月に子育て関連グループ交流会を実施し、12名の参加があった。

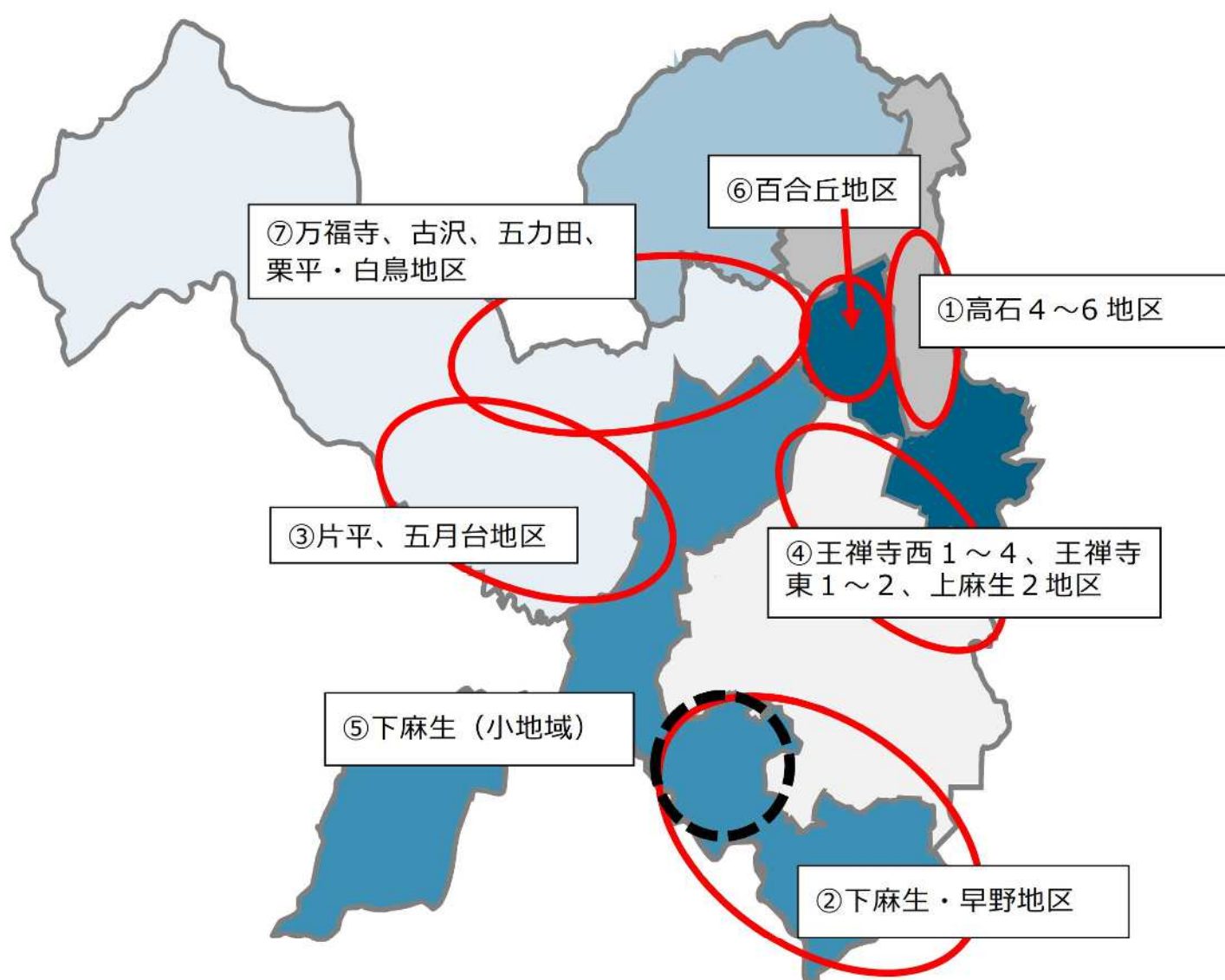
基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
3「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組みづくり	3地域活動団体の交流の場づくり	28	あさお福祉まつり	地域ケア推進課	区社会福祉協議会 福祉活動団体	第34回あさお福祉まつりの実施 参加団体数：63団体 来場者数：約5,500人	第35回あさお福祉まつりの実施 参加団体数：63団体 来場者数：約5,600人	・麻生区社会福祉協議会と共催で「第35回あさお福祉まつり」を11月10日に実施した。
		29	あさお子育てフェスタ	生涯学習支援課 地域ケア推進課 企画課 地域支援課 保育所等・地域連携担当	子どもに関わる機関・団体 民生委員児童委員協議会	第10回あさお子育てフェスタの実施	第11回あさお子育てフェスタの実施（3/20実施予定）	・子育て世代のための情報提供や親子のふれあいの場として、25団体（地域の子育て支援団体等）が参加・協力し、3月20日（木・祝）に開催予定です。
		30	麻生市民館サークル祭	生涯学習支援課	麻生市民館サークル連絡会	参加サークル数：30サークル 来場者数：約2,100人	参加サークル数：29サークル 来場者数：約3,100人	・サークル活動の1年間の集大成の発表の場、及びサークル・地域間の交流の場として、6月8・9日に開催した。市民館の大ホール、大会議室等を利用し活動発表を披露した他、6月7～12日でギャラリーで美術展を実施した。
		31	希望のシナリオ実現に向けた取組	企画課	麻生区ソーシャルデザインセンター	—	—	・地域の課題解決やまちのひろば創出を目的に、4月に開設し、12月にNPO法人化を行った。麻生区ソーシャルデザインセンターと協働して、団体や個人等からの相談受付やSDCカーによる交流の場づくり、他区SDCとの交流・情報交換等を行った。
		32	麻生市民交流館やまゆりの活用促進	地域振興課	麻生市民交流館やまゆり	市民活動相談窓口の開設：週2回 人材育成講座：全5回（アクティブシニア講座） 市民活動団体交流イベント： ・市民活動団体発表会 1回 参加団体 6団体 ・ビバ！あさおの子どもたち 1回 参加団体 7団体 麻生区地域コミュニティ活動支援事業：4団体	市民活動相談窓口の開設：週2回 ビバ！あさおの子どもたち：1回 参加団体 7団体 麻生区地域コミュニティ活動支援事業：6団体 人材育成講座：全5回（アクティブシニア講座） 【見込】 市民活動団体発表会 1回 参加団体 6団体【見込】	・相談窓口や情報紙「やまゆりニュース」（6・10・2月）、「あさおふれんず」（4・8・12月）の発行により、主に麻生区内の市民活動情報の提供、発信を行った。 ・区民の地域参加を支援するため、定年退職者等を対象とした人材養成講座「アクティブシニア講座」を行った【見込】。 ・市民活動団体、区民の交流を促すため、「ビバ！あさおの子どもたち」や「市民活動団体発表会【見込】」を開催した。 ・新たなコミュニティづくりにつながる事業に対して6団体に対して助成を行った。
	4災害対応力の向上と防犯対策の強化	33	地域の防災活動支援	危機管理担当	町会・自治会 自主防災組織	防災資器材購入補助金：申請34件 活動助成金：43件	防災資器材購入補助金：申請38件 自主防災活動助成金：36件	・各自主防災組織が災害に備えるために調達する防災資器材購入補助金の交付や、自主防災組織の訓練に対する自主防災組織活動助成金を通じた活動支援を行った。
		34	区民の防災意識・防災スキルの向上	危機管理担当	町会・自治会 自主防災組織	総合防災訓練実施回数：2回 区民防災塾の開催：2回（うち1回は荒天により中止） 避難所運営会議の開催：25か所 地域における自主防災組織の訓練の実施回数：56回 ぼうさい出前講座：30回	総合防災訓練実施回数：2回 区民防災塾の開催：1回 避難所運営会議の開催：24か所 地域における自主防災組織の訓練の実施回数：51回 ぼうさい出前講座：29回	・第1回麻生区総合防災訓練は、自主防災組織を対象に市の総合防災訓練として9月1日に麻生水処理センター及び市立柿生小学校で実施予定だったが大雨の影響で中止となった。ただし、訓練で重視していた女性やトイレ問題などは、総合防災訓練前のプレ訓練や避難所運営会議などの実働訓練の中で実施したことで、地域団体の防災力強化につなげた。 ・第2回麻生区総合防災訓練は、市が実施していた「備えるフェスタ」と初の合同開催となり、12月7日に新百合ヶ丘駅南口ベテストリアンデッキとミスノフトサルブラザ新百合ヶ丘で実施した。普段使いのモノを防災に活かすためのアイディア紹介や楽しみながら防災を学ぶコーナーを多数設置し、普段防災に関心の少ない市民に防災啓発を行った。また、同時に開催した区民防災塾では、パールやジャッキ、ロープ等を使った実践的訓練や楽しみながら防災を学べるGENSAI迷路などを設定し、防災意識・スキルの向上と「自助」の強化を図った。なお、この訓練では帰宅困難者対策訓練も併せて実施し、関係団体間の連携強化につなげた。 ・区内25か所の全ての指定避難所で開催される避難所運営会議では、これまでの会議形式ではなく実働訓練とし、避難所開設、運営訓練を実施した。 ・「ぼうさい出前講座」では、住民の集会等に区の危機管理担当が参加し、災害時のトイレ問題を中心に小学生から高齢者まで幅広い年齢層に防災知識の普及啓発を行った。
		35	災害時要援護者避難支援制度	危機管理担当 高齢・障害課 地域ケア推進課	町会・自治会 自主防災組織 民生委員児童委員協議会	災害時要援護者避難支援制度 登録者数：612名 内、新規登録：77件 （障害者27件、高齢者50件）	災害時要援護者避難支援制度 登録者数：589名 内、新規登録：70件 （障害者25件、高齢者45件） 6地区民生委員児童委員協議会合同災害委員会：2回（見込み）、地区民生委員児童委員協議会内で意見交換：2～3回／6地区	・高齢・障害課の窓口にて災害時要援護者避難支援制度の申請があり次第、名簿等の重要書類を自主防災組織へ送付し、申請者への訪問等を依頼するとともに、民生委員との連携を促した。また、町会・自治会、民生委員に対して、出前講座等にて制度の説明を行った。 ・二次避難所連絡会議を令和7年2月17日に開催した。 ・令和6年4月1日時点の登録者について、6月開催の地区民生委員児童委員協議会で個票を配布した。令和6年7月に6地区民生委員児童委員協議会合同災害委員会を立ち上げ、「平常時と発災時の民生委員児童委員の心がけ7事項」を作成した。個々の認識を統一し、町会・自治会・自主防災組織と連携した避難支援体制づくりを検討した。
		36	災害時個別避難計画の作成支援	高齢・障害課	居宅介護支援事業所 障害者施設等 相談支援事業所	—	支援対象事業所作成分【見込】 （麻生・多摩・市外含む） 新規：26件 更新：22件	・自ら避難する事が難しい障害者等が安全に行動できる具体的な避難方法を検討し、避難先での配慮事項と一緒に考えるため家庭訪問や施設訪問し、災害時個別避難計画を作成した。また、計画相談事業所が災害時個別避難計画を作成する際に助言・指導する伴走支援も実施した。
		37	防犯への対応力の強化	危機管理担当	警察署 麻生区安全・安心まちづくり協議会	防犯研修会の開催：3回 スポーツ防犯教室の開催：2回 麻生セーフティメール 配信数55件 登録者数6088名内新規登録者数263名 わんわんパトロール登録者数169名（令和5年10月1日から）	防犯研修会の開催：2回 スポーツ防犯教室の開催：2回 麻生セーフティメール 配信数57件（2月10日現在） 登録者数6351名（2月10日現在）内新規登録者数263名 わんわんパトロール登録者数222名（2月10日現在）内新規登録者数53名	・警察と連携した防犯研修会や小学生を対象としたスポーツ防犯教室を開催するとともにわんわんパトロール事業を通じた個人の防犯見守り活動の支援を行うことで防犯意識の醸成に向けた取組を行った。 ・麻生区で発生した犯罪、災害、交通事故などの身近な情報を発信し安全安心意識の醸成に向けた取組を行った。 ・麻生区内の防犯・防火・防災等の情報を地域が共有できるよう麻生セーフティメールを配信した。 ・区民からの防犯カメラ新設や防犯灯の修繕、迷惑電話防止対策（迷惑電話防止機能付き電話）等の相談に対応した。

基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
3「ひと・もの・場」をつなぐ自助・互助の仕組みづくり	5地域における見守り力の向上（重点項目4）	38	ひとり暮らし等高齢者見守り事業	高齢・障害課	民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター	見守り対象者：25名	—	・令和6年度は全数調査であり、調査対象者は約8,500名ほど。9月～10月に民生員児童委員協議会に事業説明し、今年度のスケジュールをお伝えし、見守り対象者を選定した。 ・地域包括支援センター連絡会議にて見守り対象者リストを共有し、対象者の確認を行った。（選定を行う）
		39	地域福祉の担い手による地域情報交換会	地域ケア推進課 地域支援課	民生委員児童委員協議会 町会・自治会 地域包括支援センター 区社会福祉協議会	地域情報交換会の実施 2回	地域情報交換会の実施 6回（地域みまもり支援センター・民生委員児童委員協議会主体） 地域情報交換会の実施 1回（地域みまもり支援センター主体）	・民生委員児童委員と町会・自治会、地域包括支援センター、社会福祉協議会等が意見交換を行う「地域情報交換会」を、各地区民児協と共催して、地域情報交換会を通して、地域の関係者がお互いの活動を理解し合うとともに、地域資源の共有や地域課題に対する認識の共有が図られた。 ・下麻生地区において地域福祉の担い手による地域情報交換会を開催し、担い手同士の連携を促した。
		40	地域の生活支援コーディネーターと連携した地域づくり	地域ケア推進課 地域支援課	生活支援コーディネーター	—	—	・地域情報交換会やあさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議を通じて、町内会等、他団体との交流の機会を創出した。 ・市政だより区版にて、区内5カ所の事業所の取組等を紹介した。 ・生活支援コーディネーター主催の会議等に出席し、地域情報の共有と地域の主体との連携を促した。
		41	麻生区高齢者見守りネットワーク事業	高齢・障害課	協力事業者 地域包括支援センター 民生委員児童委員協議会	通報件数：4件 協力事業所：26業者 情報交換会：1回	通報件数：7件 協力事業所：28業者 情報交換会：2回	・協力事業者及び関係機関（民生委員、地域包括支援センター、警察、消防など）との情報共有及び連携強化を図り、事業を円滑に運営することを目的とする情報交換会を9月に実施。今年度は新たに2事業所が加入した。 ・協力事業者あてに地域支援課主催の講演会や消費者行政センター主催の講演会情報をメール配信した。
		42	川崎市地域見守りネットワーク事業	地域ケア推進課	協力事業者 地域包括支援センター 民生委員児童委員協議会	通報件数：6件	通報件数：3件	・協力民間事業者からの通報を受け、対象者の安否確認等必要な対応を行った。
	6地域福祉を支える関係者の支援とネットワークの強化	43	町会・自治会への活動支援	地域振興課	町会・自治会	町会・自治会ガイドブック：6,000部発行 町内会・自治会活動応援補助金：67町内会・自治会から申請 麻生区町会連合会の研修・勉強会：3回 町会長・自治会長会議：1回	町会・自治会ガイドブック：6,000部発行 町内会・自治会活動応援補助金：77町内会・自治会から申請【見込み】 麻生区町会連合会の研修・勉強会：3回 町会長・自治会長会議：1回	・「町会・自治会ガイドブック」（A4判24ページ）について、麻生区町会連合会と今年度の仕様を検討した。町会・自治会に加入するメリット等に関する記述を充実させた上で、6,000部発行した。 ・町内会・自治会活動応援補助金について、説明会を6月に2回開催するとともに、随時個別相談、町内会・自治会への訪問説明を行った。なお、町会長・自治会長のライフスタイルに配慮し、2回の説明会のうち1回を夜間に開催した。 ・麻生区町会連合会の事務局として、町内会・自治会活動の活性化のための研修会・勉強会開催の補助をした5月に町内会・自治会の活動取組み事例等を議題として、「新任町会長・自治会長研修」を実施した。10月に町内会・自治会の緑化活動の参考にするため、川崎区内の緑化フェアを視察する「勉強会」を実施し、都市緑化の重要性を再確認した。1月に、町内会・自治会運営、防災、防犯の知識の向上を図るため、「町会長・自治会長会議」を実施し、行政・関係機関の施策に関する説明を受けるとともに、弁護士・看護師・警察から具体的な事例を交えた講義を受けた。また、2月に視察先を我孫子市を中心とした「視察研修会」を実施した【予定】。
		44	民生委員児童委員協議会への活動支援	地域ケア推進課	民生委員児童委員協議会 区社会福祉協議会	地区民生委員児童委員協議会：月1回／6地区	地区民生委員児童委員協議会：月1回／6地区、 地域情報交換会：6回	・区内6地区にある民生委員児童委員協議会の運営を支援した。一部の民生委員児童委員協議会で実施した地域情報交換会の運営を支援した。
		45	福祉関係団体への活動支援	地域ケア推進課	日本赤十字社 保護司会	総会・定例会等開催回数 保護司会：12回 遺族会：3回 赤十字奉仕団：1回	総会・定例会等開催回数 保護司会：9回 遺族会：3回 赤十字奉仕団：2回	・各種団体の事務局として、総会や定例会の運営補助（会場準備・開催案内送付・出席者集約・資料作成・印刷・外部関連機関への報告等）を行った。また必要に応じて会へ出席し、区からの情報提供を行うとともに、各種啓発イベントに協力するなど、関係団体と密に連携しながら活動支援を行った。
		46	地域包括支援センターとの連携	高齢・障害課 地域支援課	地域包括支援センター	地域包括支援センター運営協議会：年2回 地域包括支援センター連絡会議：月1回 高齢者支援カンファレンス：月1回	地域包括支援センター運営協議会：年2回 地域包括支援センター連絡会議：月1回 高齢者支援カンファレンス：月1回	・地域包括支援センター運営協議会を2回開催した。（11、3月） ・地域包括支援センター連絡会議を月1回開催し、包括の業務に関する情報共有や検討を行っている。連絡会議と同日に研修や情報交換の機会を設け（障害に関する制度やBCP等）、効率的に開催した。 ・区独自に開催している高齢者支援カンファレンスについて今年度は障害関係者やリハ拠点、SC等の新たな参加者があり、個別支援のスキルアップとネットワーク構築に取り組んだ。 ・地域包括支援センター連絡会議に出席し、情報共有や連携強化を行った。 ・高齢者支援カンファレンスに参加し、地域の高齢者支援について関係機関と検討を行った。
		47	麻生区地域自立支援協議会との連携	高齢・障害課	障害者相談支援センター	企画運営会議：月1回	企画運営会議：月1回	・障害者に対する相談支援体制の理解をより深められるように、多摩区と共催で指定・特定相談支援事業所と連絡会を5回実施した。 ・居宅介護事業所と利用者の相互理解を深める座談会、茶話会を各1回、障害者グループホームとの連絡会を2回実施し、情報共有を図った。
		48	麻生区社会福祉協議会との連携	地域ケア推進課	区社会福祉協議会 地区社会福祉協議会	—	—	以下の内容について、相互の取組に参画し、麻生区社会福祉協議会との連携強化を図った。 ・麻生区社会福祉協議会が主催する各種委員会に委員として参加し、情報共有した。 ・麻生区社会福祉協議会の事業に広報に協力した。（民生委員児童委員活動強化月間における横断幕・懸垂幕掲示）
		49	麻生区在宅療養推進協議会との連携	高齢・障害課	区医師会 麻生区介護支援専門員連絡会	区民向けシンポジウム：年1回 参加人数88人	区民向けシンポジウム：年1回 参加定員400人	・麻生区在宅療養推進協議会（麻生区医師会）が2月22日（土）に市民向けフォーラムを実施（予定）。会場予約や市政だよりへの掲載等について協力した。
		50	民間資源を活かした地域福祉活動の推進	地域ケア推進課 地域支援課	社会福祉法人 民間企業 独立行政法人	—	—	・長寿日本一記念事業として、麻生区内スポーツ関連施設5カ所と連携して健康づくりに関する普及啓発を実施した。施設のスペースを使い、健康チェックやその結果に応じた健康相談・情報提供を行う「あさおの保健室」を6回、スポーツジムのインストラクターによる公開講座「ロングライフコンディショニング」4回実施したほか、麻生区健康情報ポスターを毎月発行し、施設内に掲示し情報発信した（再掲）
		51	地域包括ケアに関	地域ケア推進課	町会・自治会 区社会福祉協議会	あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議：4回	あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議：3回【見込】	・関連団体、学識経験者、公衆市民による、あさお福祉計画及び地域包括ケアシステム推進会議を行い、麻生区ソーシャルデザインセンターや区内の生活支援コーディネーターから説明を伺うとともに、意見交換を実施した。 ・地域包括支援センターが主催する「地域ケア圏域会議」に出席し、町会役員や民生委員等地域住民や関係者と地域の現状や課題を共有し、地域活動に繋げられるよう支援した。

基本目標	基本方針	取組No.	取組	関連する部署	関連する団体等	数値で把握することが可能な取組結果（R5）	数値で把握することが可能な取組結果（R6）	令和6年度取組内容の実績等
		31	する会議	高齢・障害課	民生委員児童委員協議会 地域包括支援センター	相談支援・ケアマネジメント推進委員会 3回実施	相談支援・ケアマネジメント推進委員会 3回実施	・包括が主催する調整会議やケアマネ連絡会主催の幹事会、地域包括支援センターとケアマネ連絡会で共催する研修等についての年間計画を作成した。 ・地域ケア会議等からあがる地域課題や課題解決への取組、区内で実施する高齢者に関する多様な取組を区課題整理シートに掲載し、更新。他の主体とも連携して課題解決に取り組んだ。

令和6年度 地域情報交換会の結果報告について

民生委員児童委員、町会・自治会、地域包括支援センター及び地域福祉関連団体が、互いの活動内容について理解を深め、顔の見える関係を築き、地域の支え合いネットワークの強化を図りました。



① 麻生東第1地区 地域情報交換会（高石 4～6 丁目）		
目 的	高石4～6丁目を中心に、地域の情報を共有するために開催	
日 時	令和6年6月22日(土)10時～12時	
場 所	麻生区役所第1会議室	
参 加 者 (32人)	民生委員 14名、町内会・自治会・管理組合役員・自主防10名、地域包括支援センター 1名、生活支援コーディネーター 1名、地域みまもり支援センター 6名	
内 容	○民生委員・児童委員活動紹介 ○地域包括支援センターの業務について ○生活支援コーディネーターの業務について ○情報交換(フリートーク) 3班に分かれて「現在地域で気になっていること・関心を持っていること」をテーマに地域づくりについて情報を交換。 【話された主な内容】 ・外出する際の移動手段について ・空き家の問題について ・新しく立ち上がった公園体操について ・災害時の避難経路や町会作成の避難マップについて ・地域の中で求められている交流について	
成 果	・参加者自ら町会作成の災害時マップ等お持ちいただき、主体的に課題を共有していただけたことがよかった。 ・テーマが多岐にわたり、様々な観点から地域の情報交換ができた	
課 題	・地域情報交換会の開催目的を会の準備段階の早い時期から伝える必要があった。 ・参加者の声が聞き取りやすいよう、班分けをさらに少人数化したり、机の配置を工夫する等配慮が必要だと感じた。 ・開催案内の出し方にばらつきがあった為、当日参加者の把握に時間がかかった。 ・限られた時間内で論じるにはもう少しテーマを絞り、対象地域も限定すればよかったと感じた。	

②柿生第2地区 地域情報交換会（下麻生・早野）		
目 的	町内会をはじめ様々な団体との連携を深めるため、町内会・各団体等から見た民生委員児童委員の活動について共有する場として開催。	
日 時	令和6年9月7日(土)10時～11時30分	
場 所	麻生区役所第1会議室	
参 加 者 (31人)	民生委員 9名、町内会・自治会 8名、地域包括支援センター 4名、 地域相談支援センター 3名、区社会福祉協議会 2名、 地域みまもり支援センター 5名	
内 容	○各団体の活動紹介(民生委員、地域包括支援センター、地域相談支援センター) ○意見交換(フリートーク)自治会単位で3班に分かれ、民生委員の活動について日頃感じていることをテーマに意見交換。 【主な内容】 ・民生委員の活動について →町内会、包括や地域相談センター、生活支援コーディネーターとの連携。 ・民生委員として日頃から心がけていること →挨拶。地域活動や自治会活動における情報収集。 ・民生委員の広報について →自治会未加入の方が多く回覧板以外でのアプローチが必要。地域活動をきっかけに存在を知ってもらう。 ・民生委員の担い手不足 ・民生委員や町内会が行っている地域活動について	
成 果	【次のことを共有した】 ・民生委員の仕事が多く、負担が大きい ・民生委員の活動を知らない人が多い ・ <u>居場所づくりをしても外に出られない人と、どう繋がればよいのか</u> ・ <u>一人暮らしの高齢者の支援に、ちょっとしたお手伝いが必要</u> ・ <u>認知症の方とのかかわり方が難しい</u> ・自治会と民生委員の活動を互いに理解し、うまく役割分担できると良いのでは ・ <u>気難しく頑固な高齢者が多いので、関わりを持つのが大変</u> ・高齢者が多く、階段の上り下りや坂が大変 ・ <u>介護負担が家族にかかってしまう</u> ・ <u>どんど焼きを組む若者がいない</u> 【担当意見】 町内会・民生委員・地域包括支援センター・地域相談支援センターの活動をさらに理解し、共有することができた。意見交換の中で、民生委員児童委員の広報について、イベントや掲示板における周知の必要性を共有し、一部の民生委員児童委員から、非常に励みになったとの感想をいただけた点は、実施してよかった。	
課 題	今回実施した地区は、各団体同士がすでに顔の見える関係を築けていたため、活発な意見交換となった。一方で、負担ばかりで開催する意義が見出せない、とのご意見もあった。 <u>関係が築けている地域で実施する際は、もう少し対象のエリアを狭めて、地域の課題について深掘りできる会にできれば良かった。</u>	

③柿生第3地区 地域情報交換会（片平、五月台）		
目 的	町内会をはじめ様々な施設、団体との連携を深めるため、「地域を語る～片平・五月台～」という副題を掲げて開催。	
日 時	令和6年11月2日(土)14時～16時	
場 所	片平会館 2階（麻生区片平 5-11-10）	
参 加 者 (26人)	民生委員 10名、町内会・自治会役員 5名、地域包括支援センター 1名 福祉施設 1名、生活支援コーディネーター 2名、こども文化センター 1名 区社会福祉協議会 1名、地域みまもり支援センター5名	
内 容	○片平の施設、活動の紹介(片平地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、片平こども文化センター、片平老人いこいの家、子育てサロンおしゃべり場マハロ、片平地域コミュニティ交通推進協議会「かきまる号」) ○情報交換(フリートーク) 3班に分かれて地域に分かれて情報を交換。 【話された主な内容】 ・民生委員の活動について(75歳以上の単身高齢者の見守り、包括との連携) ・子育てサロンの参加に向けた周知方法について ・強盗のニュースから地域の防犯活動について →パトロール、防犯カメラの設置。犯罪が起こる前の声掛け等が大切 ・プライバシーの関係で、近隣の家族構成が分からないという問題について ・地域包括支援センター、生活支援コーディネーターの広報について ・生活支援コーディネーターの役割や活動紹介、今後の連携について ・町内会の役員選びや、町内会離れの問題について ・新生児訪問等、保健師の仕事について	
成 果	【担当意見】 <u>地域の町内会館で開催し、こども文化センター、金井原苑等の地域に関わる施設の担当者を招いたことにより、多方面の視点から意見を伺うことができた。</u> 【参加者の感想から】 ・ほとんど情報のなかった地区のお話が伺えてよかった。 ・他の地域の問題意識が自分の地域と違うことを認識した。 ・新たな検討事項が発見できることが多々見られた。 ・<u>子育て世代の方の取組や町会民生委員の方の疑問やお困りごとを聞いた。これをどうつなげてコーディネートしていくのか。関係機関で協議が必要である。</u> ・<u>包括と生活支援コーディネーターの連携がもっと進むとよい。民生委員を含む三者の住み分けが必要。</u> ・<u>子供の虐待、こども食堂のニーズは拾えなかった。</u> ・定期的に各関係者と会う機会を持った方が良い。 ・<u>今度は2年後との話がありましたが、もっと早く開催してほしい。</u>	
課 題	<u>定期的な開催の要望があるものの、参加者の呼びかけ、会場調整など、開催要望に応じられる担い手(主催者)が必要である。</u>	

④柿生第1地区 地域情報交換会（王禅寺西1～4、王禅寺東1～2、上麻生2）		
目 的	次年度の民生委員児童委員一斉改選の備え、主に町内会・自治会に対し、民生委員の活動を理解してもらうため、開催。	
日 時	令和6年11月30日(土)10 時～12時	
場 所	麻生区役所4会 第1会議室	
参 加 者 (21人)	民生委員6名、町内会・自治会6名、地域包括支援センター2名、地域みまもり支援センター7名	
内 容	○地域包括支援センターの活動紹介(新百合地域包括支援センター) ○情報交換(フリートーク) 2班に分かれて地域に分かれて情報を交換。 【話された主な内容】 ・民生委員児童委員の活動及び一斉改選について →仕事内容、やりがい、なり手不足など ・個人情報共有問題について →法律の問題、行政組織の問題、誰とどこまで共有すべきなのかなど ・住民からの情報提供に対する相談先がわからない問題について →最終的に町内会・自治会が抱えてしまう場合も多い ・高齢者世帯への屋根工事詐欺や庭木問題について ・民生委員・児童委員の認知度が低い →活動がわかりづらい、訪問しても出てもらえない場合もある ・町会・自治会と民生・児童委員のコミュニケーションの重要性について	
成 果	【参加者の感想から】 ・町会長とは毎月町会定例で顔は合わせているが、お互いの仕事内容もよくわかっておらず、苦労している点もわかっていないという事がわかりました。 ・民生委員同士でもこのように話す場はなかったので、このような機会は大切だと感じました。 ・もっと民生委員さんの活動を地域に知らせるのが大事であると感じました。 ・このような形で町会と民生委員が情報交換する機会を持つことが大切という声が町会からも民生委員からも聞かれた事がよかったです。 ・民生委員や地域包括支援センターの方と率直なコミュニケーションができてよかった。 ・災害時要援護と高齢者見守り制度。地域や関係部署で気にかける対象者は同じはず。情報共有すべきなのに役所の管轄が違うので混乱する。もっとうまく機能するよう改善できたらと思った。 ・個人情報の扱い問題と地域連携の難しい問題をどう乗り越えていくか大きな課題。 【担当者意見】 ・民生委員児童委員と町内会・自治会、地域包括支援センター相互の仕事への理解を深められ、困りごとや課題を共有することができた。	
課 題	・声がけしたが半数近くの町内会・自治会が不参加であったことや、定期的な開催を望む声もあったが、開催の担い手(主催者)が必要である。	

⑤下麻生地区情報共有会		
目 的	活動横断的に地域の現状や活動の状況を共有する機会を設けることで、主体となっている民生委員や自治会が活動を振り返るとともに、関係機関との連携強化を図り、下麻生地区の住民を切れ目なく支える仕組みづくりを目指す	
日 時	令和7年2月4日(火)10時～11時30分	
場 所	下麻生自治会館(麻生区下麻生2-31-7)	
参 加 者 (20人)	民生委員 5名、町内会・自治会役員 1名、 地域包括支援センター 1名 地域相談支援センター 1名、生活支援コーディネーター 2名、 保育園 3名 東柿生駐在所員 1名、 地域みまもり支援センター6名	
内 容	・自己紹介 ・地区担当保健師から地域の状況について講話 ・各機関からみた地域の情報 ・まとめ	
成 果	(会議の成果) ・参加者からはふだん付き合いのない方と顔を合わせ、互いがどのようなことをしているのか知ることができ有意義な会議だったとの感想が得られた。 ・地域の方が地域に潜在的にある課題に気づき、解決のためにどうしたらよいかと相談する機会となった。 <u>・地域包括支援センターがヤングケアやダブルケアの話題を提供したことで、保育園側が子に対する育児負担だけでなく、自身の親の介護負担がないかを意識することや、逆に地域包括支援センターが介護の相談を受けたときに家庭内に育児の負担が生じてないかなど、所属する機関の対象にとらわれず、世帯を重層的に見る視点を共有することができた。</u> <u>・保育園側が下麻生地域の公園体操に関心を寄せてくださり、園児を連れての参加の意向を示してくださった。多世代交流をとおして、子どもが高齢者を、高齢者が子どもを意識して見守るなどの関係性を作っていけると良い。</u> ⇒2月17日に王禅寺しらゆり保育園の年中長が体操に参加してくださった。 <u>・地域の民生委員から親の介護の負担はあるものの、大変さを表出できず家庭で抱えてしまっているケースとの話がある。地域版の介護者向け講演会などを実施して、介護負担が共有できる機会が作れたら、との話があった。</u> ⇒今後、地域包括支援センターや SC と連携して実施に向けて検討していきたい。	
課 題	<u>・ヤングケアやダブルケアなど複合化、複雑化した問題に対して、支援機関の連携の在り方を引き続き協議していく必要がある。</u>	

⑥麻生東第3地区 地域情報交換会（百合丘）		
目 的	町内会をはじめ様々な施設、団体との連携を深める為、「安全」「防犯」の観点から百合丘の地域づくりを考えるというテーマで開催。	
日 時	令和7年2月15日(土)10時～12時	
場 所	サンラフレ百合丘集会所（百合丘1丁目16―12 7号棟 1 階）	
参 加 者 (30 人)	民生委員 10名、町内会・自治会役員 6名、地域包括支援センター 1名、生活支援コーディネーター 1名、こども文化センター 1名、区社会福祉協議会 2名、UR 都市機構 1名、麻生警察署 1名、地域みまもり支援センター 6名、健康福祉局地域包括ケア推進室 1名	
内 容	○民生委員・児童委員活動紹介 ○百合丘の施設、活動の紹介(生活支援コーディネーター、百合丘こども文化センター) ○麻生警察署による防犯講話 ○情報交換(フリートーク) 3班に分かれて「安全」「防犯」の観点から百合丘の地域づくりについて情報を交換。 【話された主な内容】 ・地域包括が消費者生活センターと連携して実施している消費者被害の情報発信について ・多様化する詐欺や犯罪手口に対してどのように防犯意識を高め、コミュニティを強化すればよいかについて ・防犯カメラの設置や防犯パトロールの重要性について ・防火意識の重要性について(最近だとゴミに火をつけるケースが見られる) ・一人暮らし高齢者を狙った押し買いや給湯器の詐欺被害について ・コミュニティ強化のため行われているマンション内のカフェについて ・オレオレ詐欺の被害を受け、留守電や録音付き電話の効果的な利用について	
成 果	【参加者の感想から】 ・地域の人と交流が図れる機会となり有意義な時間となった。 ・前向きで建設的な場である印象を受けた。次回も協力したい。 ・初めて参加したが、地域の実情を知るとともに、これからの課題が見えて勉強になった。 【担当意見】 ・対象エリアやテーマを絞ったことで、より地域の課題に即した会議を行えた。 ・SC と包括の連携や役割の分担についても、その場で質問を受けながら疑問を解消できたので参加者にとって有益な情報を提供できる機会になった。 ・こども文化センターや包括等、幅広い年代の区民と日頃接している地域の主体を招いたことにより幅広い視点からの情報共有と課題解決へ向けた意見交換ができた。	
課 題	・会の開催が今後の地域づくりにも活かしていけるよう、開催後の振り返り等も丁寧に行い、できることを具体化していきたいものの、具体化に向けた次のステップの道筋がつけにくい面がある。	

⑦柿生第3地区 地域情報交換会（万福寺・古沢・五力田・栗平白鳥）		
目 的	地域に関わる方が相互に顔の見える関係を築くとともに、防災には日ごろからの顔の見える関係が大事であることを学び、つながりづくりの取組の情報交換を行う。	
日 時	令和7年3月1日(土)10時～12時	
場 所	麻生区役所第1会議室	
参 加 者 (38人)	民生委員 13名、町内会・自治会・自主防災役員8名、地域包括支援センター4名、生活支援コーディネーター4名、区社会福祉協議会1名、地区社会福祉協議会1名、地域みまもり支援センター6名、危機管理担当1名	
内 容	○地域包括支援センター、生活支援コーディネーターの紹介 ○麻生区役所危機管理担当職員による共助の観点からの防災の講話 ○民生委員・児童委員が携わっている交流サロンや集いの場づくり(公園体操)の紹介 ○情報交換(フリートーク) 3班に分かれて「日ごろからの地域のつながりづくりを考える」をテーマに情報を交換。 【話された主な内容】 ・避難所の活動を子ども達に知ってもらう ・通学路での子どもへの挨拶 ・公園体操や美化活動、緑地管理で顔の見える関係づくり ・各町内会の防災訓練の意味、災害に対する備えの意識の違いについて ・公助に期待できない、横の繋がり、絆が大事であること ・町内未加入者に対するアプローチについて ・町内会に出回るチラシが多すぎる。情報過多、回覧版など。 ・交流カフェの運営について、町内会会員と非会員の扱いをどうするか。 ・民生委員や包括がそれぞれどのような関係機関とつながっているのか、情報の地図落としが必要。	
成 果	【参加者の感想から】 ・色々な地域の活動を聞くことができ、参考になりました。 ・こういった情報交換会が様々な地域で年数回あるとよりいいなと思いました。 ・メンバー間の情報交換の時間が少なかった。	
課 題	多くの町内会・自治会の役員にお越しいただいたが、前半のプログラムで時間がおし、フリートークの時間が短くなってしまった。	